

・会議の日時及び場所

日時 平成25年12月25日(水) 午後1時42分

場所 小山市立中央公民館 試写室

・会議の組織人員

人数 6人

・出席委員

1 番	福井 崇昌
2 番	神山 宣久
3 番	福地 尚美
4 番	新井 泉
5 番	西口 絹代
6 番	酒井 一行

・説明のため本会議に出席した職員

教育部長	生賀 幸男
教育総務課長	神長 和博
学校教育課長	横塚 貞一
生涯学習課長	栗原 要子
文化振興課長	中村 孝太郎
生涯スポーツ課長	篠田 稔
博物館長	水川 和男

・書記

教育総務課長補佐兼総務政策係長 添野 雅夫

議題

報告事項

1 教育総務課

- ・寄付受入れについて
- ・叙位叙勲の伝達について
- ・小山市制60周年記念第60回教育文化保健体育功労者表彰式の挙行について

2 学校教育課

- ・教職員人事案件について

3 文化振興課

- ・第23回小山市文化振興大会(～小山市制60周年・栃木県誕生140年～第60回市民文化祭開幕祭・文化祭ポスター表彰式)の開催結果について
- ・市制60周年記念 開運のまちおやま 歴史のまちづくり講演会の開催について
- ・「第60回文化財防火デー」防火訓練の実施について

4 生涯スポーツ課

- ・小山市制60周年・栃木県誕生140年記念「第1回小山市フォークダンスフェスティバル」の結果について

- ・第36回おやま思川マラソン大会の結果について
- ・第64回県南五市対抗親善駅伝競走大会の開催について
- ・第55回栃木県郡市町対抗駅伝競走大会《夢ふる とちぎ路駅伝》の開催について
- ・平成25年度大会結果速報について

5 博物館

- ・小山市制プレ60周年記念・小山市立博物館開館30周年記念
第62回企画展「宇宙(そら)と人の物語」開催結果について
- ・栃木県立博物館地域移動博物館
「探検！ちょっと昔のくらしとおもちゃ」開催について

協議事項

(文化振興課)

国史跡琵琶塚古墳・摩利支天塚古墳及び周辺整備計画について

議事内容

○福井委員長

それでは、ただいまより12月の定例教育委員会を開会いたします。

本日の会議録署名委員の指名は、福地委員にお願いいたします。

続きまして、報告事項に入ります。

私からは特別ございませんけれども、12月ということでもう年末であります。各機関休みに入ってしまうわけですが、学校現場では何が起るかわからない状況もありますので、緊張感を持ってやっていきたいと思えます。どうぞ体に気をつけて、インフルエンザにかからないように頑張っていきたいと思えます。

それでは、教育長からご報告をお願いいたします。

○酒井教育長

本日25日は、市内の小中学校が一斉に2学期の終業式を行い、明日から1月7日まで冬休みに入ります。2学期の間、児童生徒、教職員等も大きな事件、事故に遭うことなく、充実した教育活動を行うことができましたことを感謝申し上げます。

次に、前回の定例会以降行われました主な行事等につきましてご報告を申し上げます。まず、3.11以後、特に配慮していることの一つに小中学校における節電がございます。このことにつきまして、去る11月25日、小中学校長、教頭などの代表を集め、小山小中学校節電対策会議を開催させていただきました。内容は、この冬における節電方針や配慮事項等について検討し、節電意識の喚起や照明、外灯、待機電力などの節電の方向性を、各学校宛てに提案を出させていただきました。

なお、当然児童生徒の健康面につきましては十分配慮するよう実施されており、この夏節電が顕著であった学校につきましては、過日市長から表彰を受けたところでございます。来年からエアコンのフル稼働が予想されることから、今後も意識の涵養を図ってまいりたいと考えております。

次に、12月6日は、教務主任会を行い、今年度の反省に基づいて次年度の特色ある教育企画の編成、小中一貫を意識した教育課程の編成に当たるよう指示をさせていただきました。

た。

最後でございますけれども、現在次年度以降の小山市の教育の方向性を見据えて、3つの懇話会等が進んでいます。まず一つは、学校適正配置等懇話会、これにつきましては中間まとめをし、今日に至っております。2つ目は、小中一貫教育及び小中一貫校推進協議会、さらに3つ目でありますけれども、地域とともにある学校づくり検討委員会、これらにつきましてはまとめの段階に入っております、次回以降、内容、経過等につきましてご案内してまいりますので、よろしくお願いをいたします。

以上、ご報告申し上げます。

○福井委員長

続きまして、教育部長からお願いします。

○生賀教育部長

それでは、私から平成25年12月議会市政一般質問におけます教育委員会の所管のものについてご報告をさせていただきます。緑色の表紙のをごらんください。今回の12月議会では、教育委員会所管のものは9名の議員から18の質問がございました。要点のみご報告をさせていただきます。

最初に、1、2ページをごらんください。角田良博議員から2つの質問がございました。1つ目は、小山市における小中一貫教育はどのような教育を行おうとしているのか、また現在協議会で行われている内容及び進捗状況を伺いたいという質問がございました。これに対しまして、小山市では義務教育9年間という長いスパンで、子供の育ちや学びをつなげるといった視点で、学習指導や児童生徒指導等の充実を図っておりますと答弁をいたしました。

次に、協議会につきましては、平成25年2月から始まり、11月19日に6回目の協議会が終了しました。主な内容は、小中一貫教育の基本的方針について、小中一貫校設置の基本的な考え方について検討しているといった内容を答弁いたしました。その後、先ほど教育長からお話がありましたが、12月17日に7回目の会議が行われ、協議会は全日程が終了したところです。間もなく提言が出されますので、その後皆様にお諮りをしていきたいと思っております。

2つ目が、市立体育館建設のその後の進捗状況について伺いたいといった質問がございました。3、4ページをごらんください。これに対しまして、今年度に入り5月と7月に調整会議を開催し、課題や問題についての情報提供や意見交換を実施しております。また、予算、建設規模等を把握するための基本プラン調査を実施しており、1月末には結果がまとまる予定でありますと答弁をいたしました。

続いて、5、6ページをごらんください。青木美智子議員から、小野塚イツ子記念館についての質問と女性の人権、男女平等等についての質問がございました。初めに、小野塚イツ子記念館の利用状況と今後の活用及び駐車場の質問につきましては、利用者状況は月5件程度、利用者件数は1件当たり平均20人程度であり、開館以来ほぼ横ばいの状況であること。また、今後は記念館の利点をPRして、利用者増を図っていききたい旨の答弁をいたしました。駐車場につきましては、敷地外の近くに18台分を確保してあるため、利用者数から現時点では十分と考えていると答弁をいたしました。

次に、7ページをごらんください。女性の人権、男女平等等につきましては、各公民館

における学習機会、啓発についての質問でございまして、公民館においては多岐にわたる内容の学級や地域的素養を生かした講座を開設するなど、地域の実情に即した学習機会の提供や住民の自発的な学習活動を支援していると答弁をいたしました。

次に、8、9ページをごらんください。小川亘議員からは、ディスクゴルフについての質問がございました。小山市には、公認クラブである小山ディスクゴルフクラブがあり、総合公園を拠点に活動しております。ディスクゴルフは、小山スポーツレクリエーションフェアでウレタン製のやわらかいディスクを使用する小中学生ドッジビー大会を開催し、現在多くのチームが参加するなど人気があることから、普及に努めたい旨の答弁をいたしました。また、コース整備は、コース面積が最低でも400ヘクタール必要なことから、当面は、総合公園や石ノ上河川広場を利用することが可能と考えていると答弁をさせていただきました。

次に、10ページから12ページをごらんください。中屋大議員からは、学校適正配置についての質問とスポーツ振興についての質問がございました。まず、学校適正配置につきましては、計画的な小中学校建設方針と適正な配置計画が不可欠と考えており、現有校舎等の適時適切な維持管理に努めるとともに、長寿命化計画を進めてまいります。また、学校適正配置等検討懇話会の提言を受け、学校の再配置に基づく学校施設等の建設更新計画を進めてまいりますと答弁をさせていただきました。

続いて、スポーツ振興についての1つ目の質問、現在策定中のスポーツ推進基本計画はどのようなものかについてですが、現行の基本計画は10カ年の計画期間を終えることから、スポーツによるまちづくりをさらに推進させるために策定を進めております。主な内容は、スポーツ施設の整備充実、生涯スポーツの一層の奨励、全国、世界大会で活躍する選手育成、支援を考えておりますと答弁をさせていただきました。

続いて、13ページになります。2つ目の質問は、中学校の部活動について、学校間で指導差が生じないようにするためにどのような取り組みをしているのかについてです。部活動の教育的意義や現状、教育委員会としてのかかわり等を説明し、さらに今後も人格の育成という視点を大切に、指導者の指導力向上を図り、運動部活動の充実に向け、支援体制づくりを進めていくことを答弁させていただきました。

続いて、14、15ページをごらんください。植村一議員からは、学校適正配置及び小中一貫教育について、2つの質問がございました。まず、これらの進捗状況と骨子についての質問についてですが、学校適正配置につきましては12月までに全12回の懇話会を開催し、市内全小中学校を対象に各中学校区の具体的な個別の検討を行い、適正な規模に近づけるような学校再編、統合案や遠距離通学解消のための学区の変更、再編案などを提言書にまとめていることを答弁いたしました。小中一貫校につきましては、先ほど角田議員のご質問で説明したので、省略をさせていただきます。

2つ目の質問の、こうした事業を進めるには、学校施設の整備等が必要になってくると思うが、県や国へどのように働きかけをしているのかということでございますけれども、国につきましては財政的な支援をいただけるよう、11月26日に文部科学省に要望してきたと答弁をさせていただきました。また、県に対しましては、小中一貫教育をスタートさせる際に、小中一貫教育が軌道に乗るまでの体制づくりの支援として、各中学校区にコーディネーターの配置を要望してまいりたいと答弁をいたしました。

続いて、16、17ページをごらんください。石島政己議員からは、学校適正配置と小中一貫校についての質問がございました。まず、学校適正配置につきましては、大規模校のある学区における学校新設や学区の見直し、小規模校の多い学区の学校再編を今後どう進めるのかといった質問がございました。これに対しまして、学校適正配置検討懇話会における検討内容を説明し、提言を受けた後、地域住民への説明会を開催し、合意形成の図れたところから順に学区再編、学校再編を進めてまいりますと答弁をいたしました。

続いて、18ページをごらんください。小中一貫校につきましては、中学校と小学校の距離がより近いほうが理想で、例えば絹中学校区は条件に合っていると思うが、条件がそろっているところから進めていくべきではないかといったご質問がございました。これに対しまして、絹中学校区は今年度から2年間の小中一貫教育、小中一貫校推進調査研究校に指定させていただき、先駆的、中心的に調査研究に取り組んでいることから、学校適正配置とあわせて、絹中学校区の皆さんの合意形成を図った上で、小中一貫校の形成を進めてまいります。

また、豊田中学校区等につきましても、研究成果を生かしながら発展的な一貫教育の推進を図っているところであり、地元の皆様の合意形成を図りながら、条件、基盤づくりを進め、小中一貫校の形成に努めてまいりますと答弁をいたしました。

続いて、19から21ページをごらんください。荒川美代子議員から、子供のネット依存対策についてと、子供へのがん教育について、小山市は学校ではどのように対応しているのかというご質問がございました。

子供のネット依存対策につきましては、学校では携帯端末やコンピューター等の過度な利用を防ぐために、技術家庭科や学級活動等で心身への影響や節度ある使い方等について計画的、系統的に指導しており、あわせて啓発資料を配付して、保護者にも継続的に啓発していると答弁をいたしました。

がん教育につきましては、現在学校では保健体育の授業や学級活動等において、児童生徒の発達の段階に応じ、生活習慣病との関連から喫煙や肥満、体に及ぼす影響や害について指導するなど、がんに関する正しい知識と理解及び重要性について、計画的、系統的に指導していると答弁をいたしました。

続いて、22ページをごらんください。岡田裕議員からは、小中学校における色覚異常検査について、色覚検査を行わなくなった理由は何か。また、何とかプライバシーを守りながら学校で検査ができないかといった質問がございました。これに対しまして、本市では学校保健安全法に基づき、適切な健康診断を実施しており、色覚検査については平成15年から必須項目から削除されたため、検査を行っていない状況であります。ただし、必要に応じ、適切な対応ができる体制を整えておくことや、必要な備品を学校にそろえておくことなど、文部科学省から指導があり、保護者からの要望に応じ検査を行う体制はできておりますと答弁をいたしました。

最後になりますが、小林英恵議員からは、小中学校の防災教育の取り組み状況を伺いたいといった質問でございます。二十三、四ページになります。これに対しまして、市では作成いたしました防災教育プログラムについて、防災担当教員を対象とした防災教育セミナーについて8月に実施しました。防災リーダー講習会について内容を説明し、さらに各小中学校における計画的な避難訓練等への取り組みについて説明いたしました。また、各

学校ごとに危機管理マニュアルを作成し、校内で研修を行うほか、消防署から指導、助言をいただき、改善、充実に努めていることを答弁いたしました。

以上、長くなりましたが、詳しくは、また資料をごらんいただければと思います。よろしく申し上げます。

○福井委員長

続きまして、教育総務課長から申し上げます。

○神長教育総務課長

教育総務課から3点ご報告させていただきます。初めに、3ページにつきましては、寄附の受け入れ報告でございます。記載のとおり、各小学校並びに中央図書館に看板並びに図書の寄附がありましたので、受け入れた次第でございます。ご報告させていただきます。

続きまして、4ページをごらんください。叙位叙勲の伝達についてご説明させていただきます。今回は2件、1件は高齢者叙勲ということで、小島志郎氏、元小山市立小山城東小学校長でございます。発令位勲等につきましては瑞宝双光章、伝達につきましては12月9日に伝達をしております。

もう一件は、死亡叙位叙勲でございます。慶野一夫氏、元小山市立羽川小学校長でございます。発令の位勲等につきましては正六位、瑞宝双光章、伝達につきましては12月27日金曜日を予定しております。以上でございます。

続きまして、5ページをごらんください。小山市制60周年記念の第60回教育文化保健体育功労者表彰式の挙行についてです。挙行日時が平成26年2月7日金曜日午後4時から、場所は文化センター小ホールで表彰式を行います。なお、現在各学校等から推薦を受け付けておりまして、先週締め切りまして、今まとめています。1月の定例教育委員会で被表彰者の決定を審議事項ということで審査をお願いする予定ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○福井委員長

続きまして、学校教育課長から申し上げます。

○横塚学校教育課長

学校教育課からの報告事項は、人事案件でございますので、私から報告をさせていただきます。

別紙資料でございます。件名、職員の教頭昇任について。内容でございます。萱橋小学校教頭、清水寿和が、海外教育施設に派遣されることに伴い、後任として福良小学校教諭、橋本隆夫が萱橋小学校教頭へ昇任するものでございます。橋本につきましては、そこに性別、生年月日等ございますけれども、現在福良小学校の教務主任ですので、福良小学校内の分掌といたしまして、教務主任を新たに指名する予定であります。なお、清水寿和教頭につきましては、最低2年間、オランダロッテルダム日本人学校へ派遣されます。本日、栃木県教育委員会が開催され、そこにおいて承認されたものでございますので、よろしくお願いをいたします。

以上です。

○福井委員長

続きまして、文化振興課長、申し上げます。

○中村文化振興課長

文化振興課から3点のご報告をさせていただきます。

まず、1点目、8ページになります。第23回小山市文化振興大会～小山市制プレ60周年・栃木県誕生140年～第60回市民文化祭開幕祭・文化祭ポスター表彰式の開催結果についてです。11月2日午後1時から4時まで、市立文化センター大ホールを会場に、ことしも小山市文化振興大会を開催させていただきました。開会行事に引き続きまして、文化祭ポスター展入賞者の表彰、それから文化協会功労者の表彰、ことしは記念公演といたしまして小山市文化協会所属の歌謡協会、新舞踊協会、音楽連盟によるリレー公演、「ふるさとを想う」と題しました記念公演を行ってございます。終了後には、例年の行事でございます工芸クラブ連合会による作品を活用して大抽せん会も開催したところです。入場者数は、総入場者500名で、例年に比べまして開会時点から多くの参加者をいただいています。

続きまして、9ページ、「市制60周年記念 開運のまちおやま 歴史のまちづくり講演会」の開催について報告させていただきます。小山市には、鎌倉幕府の成立に道筋をつけました野木宮合戦と、それから江戸幕府の成立に道筋をつけました小山評定という、日本の行く末を決定づけたと言われる2つの史実、これが小山ブランドとしてございます。このたびの講演会では、2つの講演、それから市民劇団開運座による小山評定の再現劇の公演を開催いたしました。市民が小山の歴史に対する興味、関心を高めようとする意識の高揚を図るということで開催させていただくものであります。

このたび初めて市企画政策課の歴史のまちづくり推進担当とのコラボ事業ということで、文化振興課共催でやらせていただく予定です。開催日時は、平成26年1月11日土曜日、13時から17時5分の予定です。会場は、市立文化センター小ホールでございます。内容としましては、1点目の講演が、野木宮合戦の歴史的意義と題しまして、京都女子大学教授の野口実氏の講演。続きまして、関ヶ原合戦における黒田長政の活躍と題しまして、福岡市博物館学芸員、高山英朗氏による講演を予定しています。この後、市民劇団による演劇「新・小山評定、武将たちの戦い」ということで、「黒田長政…父如水を超える決断」という劇を開催し、閉会予定です。入場は無料です。

続きまして、11ページ、第60回文化財防火デー、防火訓練の実施についてご報告をさせていただきます。昭和24年1月26日の国宝法隆寺の壁画が焼損した事故を教訓としまして、昭和30年からこの日を文化財防火デーと定めまして、文化庁、消防庁の指導のもと、この日を中心として全国的に貴重な文化財を火災、震災、その他の災害から守るための文化財防火運動というのが展開されています。小山市においても毎年この時期に指定文化財の所在地を会場としまして、教育委員会、消防署、文化財管理者、地域住民が協力し合い、防火訓練を実施してきています。ことしにつきましては、年明け26年1月25日土曜日午前8時半から、大川島神社を会場として、文化財防火訓練を実施する予定です。訓練内容は、発煙筒による模擬火災に対しまして、発見、通報、それから初期消火訓練、放水訓練、消火器取り扱い訓練等を実施するものでございます。

以上でございます。よろしく願いいたします。

○福井委員長

続きまして、生涯スポーツ課長からお願いします。

○篠田生涯スポーツ課長

生涯スポーツ課より5件ご報告をさせていただきます。

初めに、12ページ、小山市制プレ60周年・栃木県誕生140年記念、第1回小山市フォークダンスフェスティバルの結果についてです。11月24日日曜日に栃木県立県南体育館におきまして盛大に開催をいたしました。市内のフォークダンスサークル、レクリエーションサークル、民踊サークル、全12団体が実行委員会を組織しまして開催いたしました。5番目の参加者の状況ですが、小山市内から12チーム108名、県内外、個人による参加者、市役所新採職員、役員ということで、総勢527名の参加がありました。市内の全サークルが参加して開催ができたこと、また市民を中心とした市民の大会になったと思います。より市民に親しまれ、また市外の愛好者にも魅力的な大会を今後とも目指してまいりたいと考えております。

次に、13ページ、第36回おやま思川ざくらマラソン大会の結果についてです。風もなく、穏やかな晴天に恵まれた12月8日日曜日に、小山総合公園及び栗宮、間中方面を会場に実施いたしました。申し込み総数1,473人、参加人数1,289名は例年並みの参加状況です。北は北海道から南は大阪まで参加がございました。次のページをごらんください。全部で12種目がございまして、7種目で小山市民がトップを守ったというようなこととございます。11番をごらんください。これは埼玉栄高校という陸上で有名な学校が埼玉県にございますけれども、姉妹校か何かの関係で北海道栄高校が来ておりました。実は、10位までのうち8位までがこの北海道栄高で占めたわけなのですけれども、何とかトップは小山市民が守ったという状況とございます。以下、参加者人数とか、第3位までの結果はごらんのとおりです。

続きまして、15ページ、第64回県南五市対抗親善駅伝競走大会の開催についてご説明させていただきます。県南5市で主催しているもので、年明けの1月13日月曜日に予定されております。次ページに要項がございまして、ごらんください。5番でございますが、区間は足利市陸上競技場をスタートしまして、小山市中央公民館、文化センター西側がゴールとなります。10区間、45.9キロでございます。小山市におきましては、昨年、一昨年と、ことしはまだ年が改まっておりませんので、前回、前々回と2連覇を果たしているところですが、間々田中学校の村上ひかる選手が、全国都道府県対抗駅伝にエントリーされているということでの休場、また白鷗足利高校で活躍されている須田選手が翌週の高校駅伝に出場するというので、著名な選手がちょっと抜けてしまい、3連覇は難しいのかなというような見通しを持っているところでございます。

続きまして、17ページ、第55回栃木県都市町対抗駅伝競走大会《夢ふる とちぎ路駅伝》の開催についてご説明をさせていただきます。年明けの1月26日日曜日に雨天決行で予定されております。次の18ページをごらんください。実施要項でございます。4番、期日は、1月26日、開会式が9時15分、県庁で行われまして、県庁正門をスタートいたしまして、往路のフィニッシュが栃木県栃木市総合運動公園です。そして、復路が同じく総合公園になりまして、フィニッシュは県庁正門です。小山市は、昨年Aチームが6位、Bチームが18位、総合6位と入賞を果たし、ことしも、これ以上の成績をおさめたい期待をしております。

続きまして、19ページ、平成25年度大会結果速報、11月8日から12月12日分でございます。11月10日に村上ひかる選手、東日本女子駅伝栃木県チームに選ばれまして、チームは

準優勝、本人は区間5位の成績をおさめております。11月16日は、県高校新人スポーツ大会の重量挙げ種目が並んでおります。鈴木裕也選手、小山高校、桑中学校の出身の子です。手塚大貴選手、小山南高校、それから山口将太選手、小山北桜高校、小山三中学校の出身です。入江香代子選手、小山高校、小山城南中学校の出身です。それぞれの種目でそれぞれの成績をおさめております。12月1日になります。榎谷志穂選手、小山第二中学校出身です。冬季栃木県中学バドミントン選手権大会女子シングルスにおきまして優勝。また、海老原香澄選手、土屋芽依美ペア、小山第二中学校出身でございますが、やはり同じ大会女子ダブルスにおいて優勝。また、12月8日にはフィギュアスケートで、佐藤紗菜選手、小山第三小学校出身の選手がごらんのような成績をおさめており、参考といたしまして、萩野選手の成績を記させていただきました。

以上ですが、ご報告とさせていただきます。よろしく願いいたします。

○福井委員長

続きまして、博物館長からお願いいたします。

○水川博物館長

博物館から2点、報告をしたいと思っております。

まず初めに、小山市制プレ60周年記念・小山市立博物館開館30周年記念、第62回企画展「宇宙と人の物語」の開催結果についてです。会期は、10月5日から去る12月8日まで、開館日数56日間で実施をいたしました。展示内容は、宇宙から見た小山から星へ向かうの5ジャンルにおきまして、H2ロケット大型模型の展示や天体写真の展示など、それぞれの記載内容で展示をさせていただきました。

また、記念講演会といたしまして、11月2日にJAXAの宇宙科学研究所准教授、栃木出身の、吉川真先生によります「宇宙への挑戦と最新の宇宙像～138億光年の彼方から「はやぶさ2」まで～」と題しまして、白鷗大学東キャンパスの白鷗ホールで実施いたしました。参加者が292名、入館者数は全体で4,582名、有料が470名、無料が4,112名でした。

次に、栃木県立博物館地域移動博物館「探検！ちょっと昔のくらしとおもちゃ」の開催についてです。要旨は、下から4行目になります。今回の展示は、栃木県立博物館地域連携事業の一環として開催されるもので、昭和時代のおもちゃを中心に紹介するとともに、暮らしの道具もあわせて展示することにより、時代の移り変わりや人々の生活や文化とのかかわり等について考えていただくことを念頭に企画展を開催するものであります。会期は、平成26年1月18日から2月23日までの開館日数30日で実施いたします。

展示内容は、ふるさと栃木の郷土玩具、季節の行事と遊び、子供の遊びと戦争、駄菓子屋のおもちゃの4ジャンルに分けて展示をする予定であります。昭和を中心とした玩具、栃木の郷土玩具、暮らしの道具等を展示する予定といたしております。また、記念講演会といたしまして、栃木県立博物館の宮田妙子研究員によります「ちょっと昔のくらしとおもちゃ」と題しまして、1月の26日に記念講演会を予定しております。また、開催中の催し物といたしまして、体験コーナーにおきまして昔の遊び体験を1月の25日に、昔の暮らし体験を2月の9日に実施をする予定であります。休館日につきましては記載のとおりであります。また、入館料は無料となっております。

以上で報告を終わらせていただきます。よろしく願いいたします。

○福井委員長

報告事項は以上です。

これらについてのご質問、ご意見などをお伺いいたします。

西口委員。

○西口委員

12ページのフォークダンスフェスティバルなのですが、この第1回フォークダンスフェスティバルが小山市制プレ60周年記念という冠がついたのはどういった経緯ですか。

○福井委員長

生涯スポーツ課長。

○篠田生涯スポーツ課長

やはり小山市民の大会ということで、積極的に市制の記念するものについてはお祝いしていきたいと思っております。60周年の1年前に市民を挙げて応援したいということをつけております。

○西口委員

冠がつく場合とつかない場合の基準は何ですか。例えば名義を借りるというようなニュアンスなのでしょうか。その判断は主催者側が希望を出して、その冠がつくということなのでしょうか。

○福井委員長

プレの60周年記念でプレというのは結構いろんなところで使われていますが、事情の説明をお願いします。

教育総務課長。

○神長教育総務課長

市制60周年記念事業につきましては、庁内に検討委員会があり、60周年記念事業というものを課ごとに挙げています。市制60周年記念という冠をつけた事業として定められたものに冠をつける訳です。これに当たって、来年の3月31日で市制60周年ちょうどになるわけなのですが、その1年前の事業に対してはプレという冠をつけると決めたものでございます。ですから、来年はその事業に市制60周年記念という冠をつけて挙げる形になります。

○福井委員長

これ私からもちょっと説明いたしますけれども、栃木県生誕140年記念、これも教育委員会連合会に県から、各市町でいろんな行事をやる時に、ぜひこの140年記念という冠をつけてくれという要請もあって、使われているのだと思います。小山市のプレ60年も皆さんに知ってもらうという意味合いが大きいのだと思います。

ほかにいかがでしょうか。

では、私から、この市議会の一般質問の中で、特に小中一貫についての質問が多いと感じます。これは、議員の質問するニュアンスとしては、小中一貫校、どういうふうになっているかという質問なのですか、それともちょっと進めたほうがいいのかというような質問なのですか。これは一人一人違うでしょうけれども、全体のニュアンスとしてはどうなのでしょうか。

教育総務課長、お願いします。

○神長教育総務課長

この小中一貫教育につきましては、先ほど懇話会や検討委員会の中で、市内の学校適正配置について検討を行いました。これとの関連の中で、形態的に学校適正配置で統廃合するに当たって小中一貫校として条件が当てはまる場所がありますので、そういうところにつきましては学校適正配置の絡みの中で小中一貫校の推進をお願いしたいという形の趣旨だと捉えております。

○福井委員長

どちらかという積極的に進めるというニュアンスですね。

○生賀教育部長

だから、議員の考えとしては、小中一貫教育というよりも、小中一貫教育が全て1つの学校の中でやるような一貫校という認識が多かったものですから、この前からもそうなのですけれども、こういう教育があるのですよと説明の中でかなり取り入れさせていただいたのですけれども。その中で今教育総務課長が言ったように、学校適正配置とあわせて、今後統廃合をする場合に可能なところは中学校とあわせたような、隣接、近接という形の小中一貫校であり、そういったものをあわせて進めていくと話させていただきました。

○福井委員長

現実なかなかそう素早く進められませんが、各地域のいろんな事情とか、地域の人の意見をくみ上げながら進めるという形が必要だと思うのです。これはちょっと時間がかかると思います。

○生賀教育部長

旧市内の学校は、土地等もないので、不可能に近いというのが現状です。分離校の形で小中一貫を進めていくという形が理想かなと思っております。

○福井委員長

わかりました。

神山委員、どうぞ。

○神山委員

その学校の再編成や小中一貫だとかは話が出るたびに、学校教育の適正規模という言葉が出てくるのですが、規模的にこのくらいが学校教育で適正だという目標はあるのですか。全国的に適正規模は決まっているのか、栃木県や小山市で決まっているのか。どうなりますか。

○福井委員長

教育総務課長、どうぞ。

○神長教育総務課長

神山委員さんのご質問にお答えいたします。

適正規模につきましては小山市学校適正配置等検討懇話会、この中で、小学校につきましては12学級から18学級、1学年3クラス程度、それ以下の学校につきましては小規模校、それ以上の規模の学校につきましては大規模校という形で、中間まとめの中では分類をさせていただきました。

また、中学校におきましては、適正規模が9学級から18学級です。1学年3学級から6学級が適正規模ということで、それ以下の学校は小規模校、それ以上は大規模校という形で分類をさせていただきました。

市内の小中学校におきましては1学年1学級という学校もありますので、そういうところにつきましてはクラスがえができない中で、極端に言うと9年間、固定した1学級で教育を受けなくてはならないという形になります。その中で適正規模になるような、クラスがえができるように学校適正配置等検討懇話会でも提言等を提案いただきました。

以上です。

○福井委員長

神山委員。

○神山委員

それは小山市の基準ですか。

○神長教育総務課長

これは文部科学省の基準です。

○神山委員

文部科学省から来ているのですか。

○神長教育総務課長

はい。

○神山委員

文部科学省から来ると、大都会から田舎まで一緒くたにして数字が出てくるわけですが、それが小山に当てはまるかどうかというのも、小山市の教育委員会は考えなくてはいけないと思うのです。小山市が大都会規模なのか、田舎規模なのか。それから、適正規模になっている学校が何校あるか、1クラス10人ぐらいいかない学校は、本当に教育が成り立たないのかどうか。そういうのも判断していかなくてはいけないと思うのです。学校を再編成すれば、みんな適正規模に近づいていくのかという考えにも問題があると思います。うまく調整をとれるのはまちの中だけで周辺地域へいったら、全く調整がとれないだろうと思うのです。そういうのを小山市としてどう考えているのですか。

○福井委員長

教育総務課長。

○神長教育総務課長

今神山委員がおっしゃったとおり、学校適正配置等検討懇話会の中でもそれについては地域性とか、学校は旧単位の町、村の時代につくられた学校ですので、その位置的な関係から、学区の統廃合という中でも地域的には当然難しいこともあると思います。統廃合できるところ、当然できないところもございます。

また、都会と田舎で違うということですが、実際小山市内でも都市部と農村部でまた違いますので、そこら辺は当然地域的なものを考慮しながら考えていかなくてはならないと考えております。

○福井委員長

神山委員、どうぞ。

○神山委員

適正規模という言葉はひとり歩きさせないほうがいいような気がします。適正規模で追いかけていくことができるかと、追いかけれないと思うのです。

無理やりそういう言葉で簡単にまとめてしまうと、みんな反対意見が出せなくなってし

まう。適正規模ですからと言われると、やっぱり大き過ぎるところは減らす必要があるだろうけれども、小さいところをどうやってふやすかというのは難しい問題だと思います。だから、小さいところはどうやって教育効果を上げるかということを実際に考えなくてはいけないと思っているのです。

○福井委員長

教育総務課長。

○神長教育総務課長

全市的な考え方の中には当然小規模校、適正規模校、大規模校という話がありますがけれども、中にはその学校の温度、地域のコミュニティーの問題とか、歴史的な背景などがありますので、全部を一括した対象にするということではなく、そういうものを考えた中で学校適正配置になります。事情があるところについては、そういう形の中で考慮していくことも当然考えていきます。

○神山委員

適正規模の学校のメリット、それから大規模校のメリットとデメリット、小規模校のメリットとデメリットというのははっきり分析できていますか。

○福井委員長

教育総務課長。

○神長教育総務課長

例えば小規模校では人数が少ないので、当然先生の目が行き届くということがありますし、逆に人数が少ないことで、集団行動的な体験が不足する。また、切磋琢磨できない部分も出てきます。これは大規模校、小規模校、いずれもメリット、デメリット、相反するものが出てくるかと思います。そういうものを勘案した中で問題に当たっておりますので、十分、委員会の中でも委員に検討していただくところでございます。

○生賀教育部長

あくまでもそういったものは教育委員会から提示し、委員にお諮りしますが、来年以降は各地域にわたって説明会を開いて、そういったものの内容をよく説明しながら、十分理解を得ていきたいと思っております。どのように学校の再編をしていくかは、その後決めていく形になると思います。

○神山委員

周辺部の学校はみんな新生が入りが1桁台になってきてしまっているのです。そうすると、地域住民がこの学校はなくなってしまうのではないかと真剣に考え、憂いている。

なくなってしまうのではないかと心配をするだけなのです。そういう不安を払拭するような施策がやっぱり必要だと思います。よろしくお願ひしたいと思ひます。

○福井委員長

教育長、どうぞ。

○酒井教育長

もう一つ、適正配置で抜けている条件があるのですけれども、通学距離は、小学校で4キロ、中学校で6キロと定められていますので、その規模の問題と、通学距離の問題、いわゆる学区域の問題とあわせて検討を進めさせていただいているところです。よろしくお願ひいたします。

○福井委員長

この報告は大体何月ごろの予定になりますか。

教育総務課長。

○神長教育総務課長

学校適正配置につきましては、提言書という形でいただくのですが、今最終の懇話会が終わりましたので、その取りまとめをしているところでございます。1月もしくは2月には教育委員会にもご報告ができると思います。ただ、あくまでそういう形で学校適正配置をやったほうが望ましいという提言をいただくので、今部長からお話がありましたように、当然地域の皆様にご説明をして、その中で地域の合意を得て進めていくという話になります。提言はあくまでも提言であり、最終の形ではございませんので、よろしく願います。

○福井委員長

この問題、そういう提言を受けて我々も当然考えて、深めていかななくてはならないと思います。ぜひこの提言を受けていろんな議論を出していきたいと思います。よろしくどうぞお願いします。

そのほかいかがでしょうか。

西口委員、どうぞ。

○西口委員

19ページの報告事項、12月8日のフィギュアスケートの県で優勝した佐藤さんは、小学何年生でしょうか。また、この女子Aクラスというのはどんなレベルのものですか。練習に毎日宇都宮まで通っていらっしゃるのでしょうか。状況報告をお願いします。

○福井委員長

生涯スポーツ課長、どうぞ。

○篠田生涯スポーツ課長

済みません。詳細についてはちょっと承知していませんのでけれども、女子Aにつきましては上級生の5、6年生部門と聞いております。学年や通っている練習の会場などは、承知しておりません。申しわけありません。

○西口委員

将来が楽しみです。

○篠田生涯スポーツ課長

後ほど調べまして、報告させていただきます。

以上でございます。

○福井委員長

ほかはいかがですか。

福地委員、どうぞ。

○福地委員

別紙にあります教頭昇任についてですが、現在の教頭先生がロッテルダムへ行くのは個人的に希望を出して、こういう職をいただく形なののでしょうか。また、帰ってからは、小山にお戻りになるシステムになっているのでしょうか。

○福井委員長

教育長、どうぞ。

○酒井教育長

現在萱橋小学校の教頭でございます。個人で手を挙げて、国の選考試験に合格をし、候補者として挙げられました。空席ができましたので、オランダに派遣となりました。本人はどこへ行くかは希望はできません。複数の学校で交代があり、そこの校長として迎えられる。いわゆる管理職、校長、教頭でございますけれども、戻ってくる場合、原籍が萱橋小学校でございますから、基本的には萱橋小学校の教頭として戻ってくるのが原則となります。

○福地委員

原則2年ということですね。

○酒井教育長

はい。

○福地委員

ありがとうございます。

○福井委員長

ほかにいかがでしょうか。

新井委員、どうぞ。

○新井委員

この緑の冊子の19ページ子供のネット依存対策についてですが、これはまだ法律とかも整っておらず、どういうふうにやっていくのか大変な分野だと思います。これもやっぱり国から来た方針をやっていくということでしょうか。こちらで新しい対策を出していくことができるのですか。

○福井委員長

学校教育課長。

○横塚学校教育課長

答弁にも書かせていただいておりますけれども、やはり今高度情報化社会の中で子供たちを取り巻く、特にインターネットに起因しますさまざまな問題につきまして、本当に教育委員会としても危惧している状況です。

法的な規制の問題等もありますけれども、その規制あるいは条例等が出れば、またその抜け道が出てきてしまい、非常に難しい問題だと捉えております。

ただ、学校現場におきまして、今の高度情報化社会の中で子供たちがしっかりと情報教育を受け、いろいろな情報を収集して、それを取捨選択する。そういう情報の選択能力を身につけていくことが大事なことでございます。

あわせていわゆる情報モラルという部分につきましてもきちんと教えていかなければならない、これは教育の中ではとても大事な分野であると思っております。いわゆるネット犯罪やいじめ、誹謗中傷、あるいはアダルトサイト系のアクセス等々も含めまして、いろんな情報モラル等、人間関係づくりや社会生活に必要なマナー、相手の心を傷つけないことについて十分指導していきたいと思っております。あわせて小中学生の保護者への啓発のご理解、ご協力について今後もしっかりと国、県等の状況等も踏まえながら対応して、トラブルの未然防止等も含めまして対応してまいりたいと考えています。

以上です。

○福井委員長

ほかにいかがでしょうか。

ネット依存の問題は、前にNHK特集でやっていましたが、特に高校生のネットでのいじめというのがあって、ちょっとしたことから拡大して行って、ネット上ではなくて現実のいじめが始まってしまったという事例がありました。ネットを利用するなということはもちろん不可能ですから、ネットとはどういう利用の仕方が望ましいかということも含めて教育する。それと、こういう使い方をした場合は、さらに傷がつくのだとマイナスの面とプラスの面。あらゆるものを隠し立てなく提示して、子供たちがそれに対応できるような教育を同時進行で進めていかななくてはならないと感じました。

○新井委員

そうですね。どんどんこういう知らなかった部分が出てきて、本当に新しいいろんな事件も発生しています。

○福井委員長

それにいろんな展開が早く、我々が知らないときに、もう次のレベルに達しています。

○新井委員

本当にこれから大変になる分野だとは思いますが。

○横塚学校教育課長

小山市におきましては、独自の教材用ソフトウェアを使用し、そこでこういうことになると、こういう犯罪に巻き込まれる可能性があるとか、こういう使い方は人の心を傷つけるのだと具体的な教材用のソフトウェア等を使い、いわゆるネット社会の危険性、光の部分もあれば影の部分もあることについて発達の段階に応じて指導している状況です。数年前は学校の中である幾つかのグループがブログとかを勝手につくれたり、消滅できました。今は携帯のLINE等でいろんな書き込み等ができ、それが誹謗中傷につながって、今委員長がおっしゃられたようないじめ等々につながっていくケース等もあります。意外と見えない部分で進行していく状況等もあるので、非常に危惧もしておりますし、そういった部分について書き込みがないかどうか、県警のサイバーチームなどとも連携をとりながら進めている状況等もございます。

以上です。

○福井委員長

神山委員、どうぞ。

○神山委員

これはすごく難しい問題です。さっき学校教育課長は、保護者の教育をしなくてはならないとおっしゃっていましたが、その保護者も振り込め詐欺等に引っかかるわけだから、保護者を教育してもなかなか難しいと思います。それから、こういう使い方をすると、こういうデメリットがあるのだよという、それを意識的に犯罪の手口を教える可能性にもなると思います。

やはりこういう犯罪は出てくるものだと仮定して、打たれ強い人間を育てるしかないと思います。ラインでたたかれて、1人だけ孤立していじめの対象になってしまったときに、そのいじめの対象になった子がどれだけ打たれ強い体質になっているか。それで回避する

しかないと思います。

それから、いじめの対象になった子が、どこに助けを求めればいいか。その駆け込み寺が近くにあるかどうかが大きいのではないかと思うのです。どうしても頼るところがなく、泥沼にはまってしまっているケースがほとんどですから、どこかで誰かが駆け込み寺の役目をしてくれば、そういう子供たちが救われていくと思います。

○福井委員長

ほかにいかがでしょうか。

生涯スポーツ課長、どうぞ。

○篠田生涯スポーツ課長

先ほど西口委員からお話がありました大会結果速報のフィギュアスケートで優勝しました佐藤紗菜さんですけれども、5年生ということです。それから、宇都宮フィギュアスケートクラブに通っているそうです。それ以上の詳細はわかりませんでした。よろしく願いいたします。

○福井委員長

ほかにいかがでしょうか。

ほかになければ、報告事項につきましては全て承認したいと思います、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○福井委員長

それでは、報告事項につきましては以上で終わります。

本日、審議事項ございませんので、続いて協議事項に移りたいと思います。

では、10分休憩ということで、3時くらいから再開いたします。

休 憩 午後 2時51分

再 開 午後 3時00分

○福井委員長

よろしいでしょうか。

では、協議事項を進めてください。

<協議事項について説明・意見交換>

○福井委員長

では、協議会のほうはよろしいですか。

〔「ありがとうございました」と呼ぶ者あり〕

○福井委員長

来月の予定はどうなっていますか。

教育総務課長。

○神長教育総務課長

1月の定例教育委員会の予定につきましては1月の17日金曜日になります。場所は、地域学習室ということで、小山第一小学校の北側の建物になります。

○福井委員長

では、これもちまして12月の定例教育委員会を終了いたします。

どうも長時間にわたり、ありがとうございました。

—————閉 会 午後4時07分—————